日本経済新聞
3月30日
水曜日
発行所 日本経済新聞社
東京本社 ☎(03)3270-0251
〒100-8066 東京都千代田区大手町1-3-7
大阪本社 ☎(06)7639-7111
名古屋支社 ☎(052)243-3311
西部支社 ☎(092)473-3300
札幌支社 ☎(011)281-3211

中国

採用を聞く〈上〉

人手不足感が強まるなか、県境を越えた学生の奪い合いが激化している。人材確保や地元への就職促進には何が必要か。企業トップや学識経験者、自治体の担当者などに聞く。初回はマツダ人事室採用グループリーダーの吉浦朱美氏と岡山県に製造拠点を置く鋼材加工の桂スチール（兵庫県姫路市）の三木桂吾社長。

仕事のこだわり訴える

マツダ人事室採用グループリーダー
吉浦 朱美氏

——マツダの求める人材像は。

「困難でもあきらめず粘り強く取り組むことができ、お客様視点で誠実に仕事できる人材を求めている。面接では過去にどんな挑戦をしたか、マツダの価値観に共感してもらえるかを見極める」

——来春は大卒の事務系採用を増やします。

「16年度から『構造改革ステージ2』に入る。販売や財務で質の向上が必要と考えた。商品開発や海外工場を含めた安定生産でも質を引き上げるため、技術系も一定数を採用する」

——自動車業界の採用競争が厳しいのでは。

「説明会などでは仕事でこだわっているところをじっくり説明する。技術系社員が『走る歓（よろこ）び』を感じられる車をいかに開発・生産するかを熱く語る機会も設けている。最近は大学の先生や学生から、技術開発の姿勢を評価されることも増えた。マツダの強みは広島に全領域の部署が集まっていること。顔と顔を合わせて仕事ができる面白みもある」

——今年も就職活動のスケジュールが変更された影響はありますか。

「昨年は3月に説明会が解禁され、採用活動開始の8月まで間があった。今年は6月まで3カ月しかない。5月の連休を考えるとあっという間だ。短期決戦を考えて3月の説明会を去年の27回から36回と早い時期に集中させた。学生側のエントリーのスピードも早まっていると感じている」

大手との待遇格差縮小

桂スチール社長
三木 桂吾氏

——来春に向けた採用活動の現状は。

「中国地方では大手製造業が採用を増やしており、工業系の学生は中堅・中小企業にほとんど回ってこない。中途採用も難しい。岡山東部だけでは採用できず、兵庫西部にまで手を広げている。積極的に説明会に参加するほか、今年は鳥取でも学生の採用を目指す」

——学生の動向はどうでしょうか。

「当社には応募自体が少ないし、内定辞退もある。初任給は大卒で20万5千円、高卒で18万5千円。岡山県内の他企業と比べても決して悪くないし、拠点がある備前市ではむしろいい方だ。仕事も東京五輪に向けてどんどん増えていく」

「ただ工場内は夏は暑く、火花も飛ぶ。ラインを止めないよう土曜日に仕事が入ることもある。1万～2万円給料が安くても、完全週休2日で、空調の効いたビル内で働くのを好む学生が多い」

——人員確保のための取り組みは。

「まず働きやすい職場にする。営業本部の事務所をJR三石駅（岡山県備前市）から徒歩10分の工場の敷地に新設し、機能を移す。これまでは駅から遠く、企業訪問も大変だった。駅から近ければ実家からも通える。工場も自動化設備を増やし土日に休みやすくする」

「初任給のさらなる引き上げも検討している。中堅・中小は待遇や労働環境を改善し、いかに人気の職種や企業との差を埋めるかが勝負になる」

支局☎
岡山 086-225-2071
福山 084-932-3345
広島 082-241-1555
山口 0833-922-1167
松江 0852-21-2198
鳥取 0857-22-2465